

## アグリステーション丹波ささやまの今後について

緊急事態宣言がやっと解除となり、少しばかり明るさも感じられるようになったと思ったとたん、第二波がやってきたコロナ感染は将来の見通しが立てづらい状況となってまいりました。

アグリステーション丹波ささやまも例外でなく、イベントもやりづらく SNS を使って細々と活動している状態です。

### I: 今までの経過

平成 28 年 2 月 14 日、城南地区まちづくり協議会の収益事業部としてアグリステーション丹波ささやまの発足に伴い、19 名の皆様が会員登録され現在に至っています。その間、皆様にまち協の総会以外の場で事業の詳細を会員の皆様に報告できなかったこと、深くお詫び申し上げます。

過去 4 年間、(1) 農産物の栽培、加工、販売、(2) カフェ&イートイン、(3) 子育て相談、(4) まちむら交流、(5) 城南小学校、幼稚園児童の食育などを手掛けてまいりました。

#### 活動報告

個々の事業を総括しますと、

##### (1) 農産物の栽培、加工、販売

特産物として黒枝豆の栽培、販売、鶏牛蒡ご飯、おはぎの加工・販売を試みました。黒枝豆栽培は、初年度は利益が出ましたが 2 年目以降人手が確保できず収量も落ち赤字でした。

当初もくろんだ、黒枝豆の栽培、販売も会員個人の農作業日と重なり、十分な栽培管理ができず断念せざるを得なくなりました。

鶏ごぼうご飯、おはぎは美味と評判で好評でしたが、コストがかさみ、出役人数の削減、販売価格を見直し、3 年目でやっと赤字から脱却できました。しかしながら、今のままでは利益商品ということはできません。

特に鶏ごぼうご飯は、イベントで出品すれば必ず売れる商品になりました。

現在森下さんチームに加工をお願いしていますが、このレシピを若い人たちに伝承していきたいと思っています。

##### (2) カフェ&イートイン

交流拠点としてカフェをオープンしましたが、3 年目から市内の喫茶店を誘致し、集客数を増やそうとしたのですが、結果は裏目に出て我々が初年度確保したリピーターまで

失う結果となりました。これは誘致した喫茶店の閉鎖性（客を寄せ付けない雰囲気）がそうさせたと分析し、撤退していただきました。今年1月から調理師免許を持つ宇土在住の西尾雅子さん（32歳）と仲間に加わっていただき、新たなカフェ&イートインスポットとして見直し、8月1日にリニューアルオープンしました。

残念ながらコロナ禍の影響で思い切ったイベントも打てず、SNSを通じて細々と活動している状態です。

この一か月に二つのテレビ局から取材依頼がありましたが、NHK TVの取材、ロケーションは終わり以下の通り放映が決定しました。

○ NHKの取材は、アグリステーションと篠山産業高校機械科生徒によるコラボ・「おもちゃドクター」の紹介です。取材当日は子供たちが持ち込んだ壊れたおもちゃを、おもちゃドクターが修理して手渡す状況が紹介されます。放映日は：

- ・8月24日（月）18時30分から 「LIVE LOVE ひょうご」
- ・8月25日（火）11時30分から 「ぐるっと関西 おひるまえ」

です。ぜひご覧ください。

### （3）子育て相談

子育て相談室と銘打ち、市内のNPOを誘致しました。子育て世代の人たちの情報交換の拠点として多くの人たちが集まりカフェの繁盛を期待しましたが、当初週2日予定していた相談日が週一回となり、スペースの占有状態が続きました。公共性を考え施設維持協力費をわずかにただけでやってきましたが、スペースを有効活用するために当NPOには撤退していただきました。

子育て世代の母親の交流拠点づくりについては、引き続き兵庫県の「地域再生活動の次世代への承継事業」として補助金を受け、畳部屋をフローリング化、多目的トイレ、子供用トイレ、おむつ交換室、授乳室を新たに設置し、市認定の赤ちゃんステーションとなっています。今後、当プロジェクトは西尾雅子さんと仲間たちで進めていきます。

### （4）まちむら交流事業

神戸成徳地区の皆様との交流の課題は収益が上がらず、本部会計からの補助で運営してきました。月一回神戸成徳地区へ出張販売をする成徳マルシェは好評で、年間200万円以上を売り上げていましたが、人手と出品品目の確保が難しくなり年1回の出張となりました。今年は年一回の枝豆出張販売もコロナ禍で難しそうです。

代替策として予約を取って一括送付する方法で対応しようと思っています。

、戸成徳地区の皆様を城南地区へ招くイベント（田植え、デカンショまつり、稲刈り）も今後は食事代の値上げ、お土産の無料配布を止め、販売するなど収益が上がるようにしたいと思っています。先日、成徳地区代表の老田様と打ち合わせをし、稲刈り体験は少人

数で実施することになりました。

黒枝豆出生販売については、当方のスタッフ確保等を検討の上、出張販売か予約販売（成徳地区の皆さんが予約分を当地で引き取り）のいずれかで実施したいと思っています。

味まつり、丹南味覚祭りが中止の予定で、出荷先をお探しの方はぜひまちむら交流事業担当の松尾与史彦さん（080-6104-4547）までご連絡ください。

#### （5） 城南小学校、幼稚園児童の農業、自然体験

城南小学校、幼稚園児童の食育は社会事業として、利益なしでCSR事業としてやってきました。その内容は、幼稚園のタケノコ掘り、さつま芋植え～収穫、焼き芋大会、3年生の黒枝豆の播種～収穫まで、幼稚園、1年生の年末餅つき体験などです。これらに加えて、アグリステーション会員の小林絹子さんにお手伝いいただき、一昨年は4年生、昨年は2年生が自然を歩き山野草を採取、これらを材料にした創作活動も行いました。子供たちから感謝の手紙や色紙をいただき、今後も続けていきたいと思っています。

## II： 今後の事業計画

---

今までは兵庫県補助金の投入で何とか凌いできましたが、以上を今後もビジネスとして続けることは、利益を生む持続可能な組織として成り立ちません。

**今後は、日々のビジネスから利益を生む仕組みを作り、運転資金の確保をしていきたいと思っています。**

そのためには、まず何ができるか？をみんなで考え一つ一つ実行していくことにします。

まず、ビジネスの柱を（1）農産品加工、（2）子育て世代の交流拠点、（3）癒しの空間を演出するカフェ、（4）まちむら交流とします。

#### （1） 農産品加工・販売

「アグリステーション」は「農業の駅」という意味の造語です。つまりここがアグリステーション丹波ささやまの一丁目一番地です。

①鶏ごぼうご飯の加工食品商品化を進めていきます。

②クレープ、焼菓子、スナックの商品開発を進め、加工・販売していきます。

③季節ごとの主力商品を決めて売り上げの増加を図ります。今夏はこだわりシロップのかき氷を販売しています。

#### （2） 子育て世代の交流拠点

丹波篠山市の子育てニーズ調査によると、市が抱える子育てに関する課題は1) 子育てサービスが少ない、2) 子連れで行ける飲食店が少ない、3) 子供連れでも出かけやすく、楽しめる場所が少ない（平成31年調査）でした。

これらのニーズに応えるため、子育て世代の交流拠点づくりを若手チームにお願いしていきたいと思っています。

(3) 癒しの空間を演出するカフェ

丹波篠山にある有機栽培コーヒーやこだわりクレープが楽しめるカフェ。メルヘンチックなパオを中心に園庭にオープンカフェスペースを作り、田園風景と山々を借景とした景色が癒しの空間を演出します。

以上のコンセプトを実現すべく「県民まちなみ緑化事業補助金」の交付を受けて、神代曙（桜）9本の植林、宿根草の寄せ植え（9か所）、アジサイ206本の植栽と園庭418㎡の天然芝生化を行います。

(4) まちむら交流

①城南地区まちづくり協議会の委託事業として従来の体験交流や出張マルシェは継続し、

②これに加え神戸成徳地区の若手グループと共同で新たな交流事業を考えていくことで合意しています。

お客様を呼ぶには、最低限の施設整備が必要です。

今年になって、以下の整備を手掛けてきました。

① 施設内にLANと固定電話・FAXを設置しました。電話・FAX番号は079-556-5997です。WiFi環境も整い、団体の信用度が一気に増します。

② 畳部屋と菓子製造室の壁を取り外し、対面式のカウンターを設置し、畳部屋をフローリングにしました。(完了)

③ 授乳室とおむつ交換室を設置しました。(市認定の赤ちゃんステーションとなりました)

④ 週2日、保育士さんに駐在していただきます。

⑤ 多目的トイレと小児用トイレを設置しました。(工事完了)

⑥ 園庭を緑化、オープンカフェスペースを確保します。(令和3年1月着工予定)

### III： 今後の運営について

アグリステーション丹波ささやまは城南地区まちづくり協議会の収益事業部として分離独立したとはいえ、城南地区まちづくり協議会の一部門に変わりはありません。まちづくり協議会に入る市の補助金は会員が享受する便益が平等に行き当たるべきで(どちらかという利益の出ない)社会的事業のために使われるべきである。リスクの大きい収益事業は資金的に独立したものでなければならないという声も聴かれました。

実施側にとっても、社会性、公益性が常について回り思い切ったビジネスに踏み込めないでいましたが、今後はまちづくり協議会と分離し、法人化し利益を上げることに傾注したいと思っています。

#### □法人化を検討する理由

1)実態は法人化されており、国税局の法人番号も付与され、法人県民税(年間2万円)、

市民税（年間5万円）、固定資産税を過去5期にわたって納付しています。

2) 法人登記がないがための機会損失が大きく、今回のコロナウイルス救済措置でも法人登記が無いだけで持続化給付金（法人登記があれば給付される額は160万円でした）を門前払いされ昨年度に法人化しておくべきだったと後悔しています。

3) 法人として世に認知されれば、これからの新規ビジネスでの信用度アップにつながります。

4) 後継者の育成を考えると、チャレンジできて、大きな夢が持てる組織でないといい人材は来ません。リスクも取り、行動力のある後継者を確保するためには法人化したいと思います。法人化に係る費用は県補助金で行います。（100万円の採択をいただいています。）

法人の形態については、コンサルタントと相談し、最良の方法を模索していきたいと思っています。役員はアグリステーション会員の中から選びたいと思っていますが、受ける方がいなかった場合は、外部からの登用をさせていただきます。

#### IV： 令和2年度の計画について

支出分野としては大きいのが「拠点の環境改善」です。特に女性トイレは不評で、コミセンのトイレを利用していただいていた状況でした。

□ 約100万円をかけた多目的トイレ、小児用トイレ新設と防小動物・防鼠金網ネット工事が終わり衛生対策は万全となります。

□ 約240万円をかける園庭の緑化工事では、既存の桜2本に加えて、9本の神代曙（桜）の木が植えられ、裏庭には206本のアジサイを植栽、神代曙の木々の間には宿根草の寄せ植えが配置されます。パオの建つ園庭は現在のレンガチップから天然芝生になり、メルヘンチックな空間が出来上がります。着工は令和3年1月、完成は2月末の予定です。

□ あとの大きな支出分野は、法人化の手続きです。法人化により、事業費に関しては、まちづくり協議会とは会計処理に一線を引き、自己責任による運営を進めていきます。

以下は項目別予算です。総事業費はこれに販売費および一般管理費1,100,000円が加わり、5,460,000円の予定です。

##### 【次世代への承継事業費】

##### 農業関連事業

農産物栽培（苗代、肥料代他栽培費）	100,000
農園整備委託費（土壌養生・荒耕・畝立て・環境保全費）	100,000
特産品加工販売	100,000

##### イベント関連事業

アグリステーションマルシェ	120,000
夏休み課外活動	30,000

おもちゃドクター	20,000
都市・農村交流事業	
神戸成徳まちむら交流賄い材料費、講師謝礼他	10,000
枝豆予約販売仕入れ代	100,000
<b>【環境整備事業費】</b>	
交流拠点の環境改善	
小児トイレ、多機能トイレ他	1,000,000
園庭緑化事業	
桜植栽、アジサイ植栽、園庭天然芝生化	2,370,000
<b>【法人化事業費】</b>	
事務費	
顧問経営コンサルタント費用	80,000
法人設立書類作成費用	80,000
印紙税・登録免許税	150,000
広告宣伝費	
PR誌作成費	200,000
WEBサイト作成費	100,000

これで、環境づくりはほぼ完了し、本格的なビジネス展開が可能となります。

会員の皆様の中でお手伝いいただける方はぜひご一報ください。特に法人化に伴い、財務、会計担当の方を必要としています。

アグリステーション丹波ささやま  
小林 泰雄



NHK 取材風景 おもちゃドクター



手作りシロップのかき氷



多目的トイレ完成



雑貨販売コーナーOPEN!



雨の日の園庭



城南小学校 3年生黒枝豆定植



多世代交流の始まり



クレープテイクアウト開始



親子でくつろげる OPEN CAFÉ



家庭料理を商品化、次世代に伝承



篠山牛を黒糖とお醤油の甘辛いタレにお野菜をたっぷりのせて上からマヨビーム



ワイヤードラムでテーブルづくりに挑戦